

2022年度後期 開講講座

11月5日(土) 13時30分~(開場13時)

ロシア十月社会主義革命 105周年記念集会

会場=東京・全水道会館 4階大会議室

3月4日(土)

2023年国際婦人デー東京集会

※詳細は追ってお知らせします。

1、いま労働者・労働組合が 起ちあがるために

わたしたちの生活を直撃する物価高騰、ウクライナ事態を口実とした「台湾危機」のでっち上げ、憲法改悪の危機、朝鮮学校差別をはじめとする人権無視、排外主義の横行……。労働者、労働組合が声をあげ行動することが今こそ求められている。闘う仲間から学ぼう! とともに声をあげよう!

①12月10日(土) 労働組合・労働者の反戦闘争

——労組反戦行動実行委員会の活動から 講師=須田光照(全国一般全国協議会東京東部労組書記長) 庄子正紀(全国一般・全労働者組合書記次長)

②1月28日(土) 『プラットフォームビジネス

——「自由な働き方」の罠」上映と討論 (土屋トカチ監督、アジア太平洋資料センター制作、2022年制作、35分) 講師=土屋トカチ(ビデオ制作者、本作監督)

③3月11日(土) 朝・日友好の青年運動をいかに進めていくか

——神奈川県での取り組みから 講師=高井一聴(自治体労働者)

2、日本近現代と朝鮮・中国関係を考える

——わたしたちはどこで方向を見誤ったのか?

日本の近現代は、ふたつのおおきなインパクトを経てきた。1868年の明治維新と1945年の敗戦である。そこに共通するのは、天皇を頂点に戴く「脱亜入欧」「富国強兵」の帝国主義路線であり、戦後はこれに日米安保体制が加わってこんにちに至っている。この「天皇制」と「西洋=文明vs東洋=野蛮」の融合した日本イデオロギーは、為政者ばかりかわたしたち「主権者」の頭脳をも侵蝕して、いま中国・朝鮮(韓国もふくむ)へのヘイト(憎悪)としてふたたび立ち現われている。「おくれたヨーロッパとすすんだアジア」(レーニン、1913年)が指摘した階級的な観方こそ、いまわたしたちが獲得しなければならないものだ。このシリーズで、日本と中国・朝鮮、アジア諸国人民の友好・連帯のありかを探ろう!

①11月6日(日) 〈フィールドワーク〉千葉ハッキョへ行こう!

——第7回日朝教育交流研究会参観

②12月17日(土) 中国・日本・朝鮮の近代化路線を考える

——ウエスタン・インパクトにどのように対応したか? 講師=康成銀(朝鮮大学校朝鮮問題研究センター顧問)

③1月21日(土) 継続する植民地主義ということ

——東アジアの近代について何を問題にしなければならないか? 講師=中野敏男(元東京外国語大学教員)

④2月18日(土) 在日女性として生きて

——これからの朝・日女性の連帯運動 講師=金才順(在日本朝鮮民主女性同盟中央本部 国際部)

3、西側帝国主義による 国際法秩序の解体

(全4回:前期1回、後期3回)

ソ連「崩壊」後、歯止めがなくなったアメリカを中心とする西側帝国主義諸国はユーゴスラヴィア、アフガニスタン、イラク、リビア、シリアと侵略戦争を繰り返し、国際法秩序の完全な解体を進めた。現在のウクライナ事態をまねいた最大の要因もここにある。日本もまた西側帝国主義の一員であり、わたしたちはあらためてこのことを想起する責任があるのではないかと。

講師=富山栄子(国際交流平和フォーラム)

①12月13日(火) 中東ならびに北アフリカ

——アフガニスタン・イラク・リビア・シリア・イエメンなど

②1月31日(火) ラテンアメリカ・カリブ海諸国

③3月14日(火) ウクライナからインド太平洋戦略へ

——グローバル化する米軍事戦略

4、中国共産党第20回大会と 現代世界——中国社会主義の実像を探る

「長征」とは中国紅軍の壮絶な大遠征であった。「社会主義現代化強国」「共同富裕」という、いま「新たな長征」をめざして中国共産党は第20回党大会をむかえる。米国バイデン政権による中国包囲網と対中敵視政策のなかで焦点化した台湾海峡危機を第1講で、第2講では六四天安門事件にはじまる中国報道への歪みを別括、第3講で中国の革命と建設において重要な役割を果たした革命第一世代の周恩来の足跡からその精神と思想を探る。

①11月26日(土) 台湾海峡危機とはなにか

——党大会後の中国と現代世界 講師=岡田 充(ジャーナリスト)

②2月11日(土) 日本における中国報道の神話

——天安門から香港、チベット、ウイグル 講師=朱 建 榮(東洋学園大学教授)

③3月18日(土) 周恩来の生涯と思想

——中国の革命と建設における周恩来の足跡から考える 講師=村田忠禧(横浜国立大学名誉教授)

5、日中全面戦争へ向かう時流 に抗して

——中野重治の評論・小説から考える

3回の講座が扱う時期は1935年から1937年の間、それは中野重治が「転向」後ふたたび書いていくことを決意してから、内務省警保局による執筆禁止の措置を受けるまでの丸3年にあたる。当時は小説と批評の領域でも論理的なものをこきおろす勢力が伸張し闊歩しつつあった。転向作家は信念の喪失からの立ち直りを信念の充満に求めたが「信念」の中身を考えることはしなかった。そうした日中全面戦争へ向かう時流に抗し「わけのわかるものを私はかかげる」とした中野重治の実践に我々が学ぶことは今日いよいよ緊要である。 ※講座第1、2回の亀甲括弧内の中野重治の評論は、報告テーマを理解する助けとして選びました。事前に読んでご参加ください。コピーを希望の方はHOWS事務局へお問い合わせください。実費にてお分けいたします。

①11月23日(水・休) 反論理主義とのたたかい

——横光利一、小林秀雄への批判を手掛かりに 「『文藝統制の問題について』、「ある日の感想」、「閏二月二十九日」、「文学における新官僚主義」 報告=杉山雄大(HOWS受講生)

②1月14日(土) 転向作家の立ち直りとは

——島木健作への批判を中心に 「『戦うことと避けて通ること』、「白衣作業」ノート」、「探求の不徹底—『生活の探求』を読む」、「島木健作氏に答え」 報告=伊藤龍哉(HOWS受講生)

③2月25日(土) 小説「汽車の罐焚き」を読む

報告=田代ゆき(HOWS受講生)

6、日本の短編小説を読む

(開始は第1回は午後1時、その他の回は午後6時30分)

ラフカディオ・ハーン=小泉八雲の世界に見る日本的なるものと西洋的なるもの。ハーン=八雲は生涯を通じて世界の漂泊者であった。その行路はギリシア、アイルランド、フランス、アメリカ、西インド諸島、そして日本へと及び、同時にかれは近代と近代以前の過渡期を生きた作家であり、地理的にも精神的にも「相剋」と「断絶」と「普遍」の相のもとに世界を見ようとした作家である。

21世紀、世界の「相剋」と「断絶」がいつそう激化しつつあるわれわれの時代に、かつて一人の漂泊者の精神が見いだそうとした人間にとつての「普遍的なるもの」、それを改めて掘り起こし、検証し直して見ることは決して無意味ではないはずである。テキストとして「小泉八雲集」(新潮文庫)を使用する。

講師=立野正裕(明治大学元教員)

①11月12日(土) 第1回「耳なし芳一のはなし」

※11月12日(土)は午後1時開始となります。

②12月21日(水) 第2回「雪おんな」「青柳のはなし」

③1月18日(水) 第3回「日本人の微笑」「赤い婚礼」

④2月15日(水) 第4回「悪因縁」

7、この人に聞く

①11月16日(水) 沖縄への自衛隊配備から50年

——日・米の対中国軍事戦略と沖縄、尖閣・「台湾有事」 講師=伊波洋一(参議院議員、会派 沖縄の風)

②11月19日(土) 壊憲情勢のなかでの運動の課題を考える

——なぜ緊急事態条項「加憲」は危険なのか 講師=清水雅彦(日本体育大学教授・憲法学)

③1月25日(水) 日本政府のエネルギー政策

——原発再稼働、汚染水海洋放出 講師=山崎久隆(たんぽぽ舎共同代表)

④3月25日(土) ソ連邦倒壊から30年

——社会主義諸制度の解体を経て資本主義ロシアへ 講師=山下勇男(社会主義理論研究)

HOWS講座カレンダー 2022年度後期(11月~3月)
日程 講座 講師・報告
① 11月5日(土) ロシア十月社会主義革命105周年集会
② 11月6日(日) 〈フィールドワーク〉千葉ハッキョへ行こう!
③ 11月12日(土) 第1回「耳なし芳一のはなし」 立野正裕
④ 11月16日(水) 沖縄への自衛隊配備から50年 伊波洋一
⑤ 11月19日(土) 壊憲情勢のなかでの運動の課題を考える 清水雅彦
⑥ 11月23日(水・休) 反論理主義とのたたかい 杉山雄大
⑦ 11月26日(土) 台湾海峡危機とはなにか 岡田 充
⑧ 12月10日(土) 労働組合・労働者の反戦闘争 須田光照
⑨ 12月13日(火) 中東ならびに北アフリカ 富山栄子
⑩ 12月17日(土) 中国・日本・朝鮮の近代化路線を考える 康成銀
⑪ 12月21日(水) 第2回「雪おんな」「青柳のはなし」 立野正裕
⑫ 1月14日(土) 転向作家の立ち直りとは 伊藤龍哉
⑬ 1月18日(水) 第3回「日本人の微笑」「赤い婚礼」 立野正裕
⑭ 1月21日(土) 継続する植民地主義ということ 中野敏男
⑮ 1月25日(水) 日本政府のエネルギー政策 山崎久隆
⑯ 1月28日(土) 『プラットフォームビジネス』 土屋トカチ
⑰ 1月31日(火) ラテンアメリカ・カリブ海諸国 富山栄子
⑱ 2月11日(土) 日本における中国報道の神話 朱建榮
⑲ 2月15日(水) 第4回「悪因縁」 立野正裕
⑳ 2月18日(土) 在日女性として生きて 金才順
㉑ 2月25日(土) 小説「汽車の罐焚き」を読む 田代ゆき
㉒ 3月4日(土) 国際婦人デー東京集会
㉓ 3月11日(土) 朝・日友好の青年運動をいかに進めていくか 高井一聴
㉔ 3月14日(火) ウクライナからインド太平洋戦略へ 富山栄子
㉕ 3月18日(土) 周恩来の生涯と思想 村田忠禧
㉖ 3月25日(土) ソ連邦倒壊から30年 山下勇男

◎HOWS付属ゼミナール
HOWS本科生と聴講生は、有志参加による下記ゼミナールに参加できます。参加費は各ゼミ毎に別途お支払いください。
①HOWS文学ゼミ(戦後文学ゼミを改称)
チューター=山口直孝、松岡慶一
2000年から2016年まで主に戦後の文学・芸術運動を検証する作業を続けてきましたが、これを第I期として、2018年からは第II期、名称もHOWS文学ゼミで再出発しています。第I期の作業を継承するのみならず、いかにして現在の荒廃した支配的文化状況を変革して、文学・芸術運動を再生していくかが課題です。

◀2022年度後期募集要項▶
●定員 本科生20名
・全講座26回(各週1~2回程度)
※ロシア十月社会主義革命集会、国際婦人デー集会は本科・聴講券の対象ではありません。
・本科生は、すべての講座を受講できます。
◎聴講生20名
シリーズを問わず、自由に講座が選べる8枚綴りの聴講チケットがあります。
●費用
◎本科生 入学金…1万円(次期以降は不要)
受講料…前期…25,000円、後期:25,000円
・前期5月、後期11月の開講時までにそれぞれ納入してください。
◎聴講生 聴講料 回数券…10,000円
・聴講料納入と引き換えに8枚綴りの聴講チケットをお渡しします。
◎一般 受講料…1,500円(各講座1回につき)
・本科生・聴講生以外の一般参加は、受付で現金にていただきます。
・1回の受講料は本科より割高ですが、一般受講より割安になります。
・聴講チケットは、期間内のみ使用できます。
●申込方法
・所定の申込用紙に必要事項を記入のうえ、入学金・受講料を添えて、直接事務局に持参、または現金書留にて郵送してください。郵便振替ご利用の際は、申込用紙を別途郵送または事務局にお持ちください。
●注意事項
・HOWSゼミナールについては、会計が異なります。
・講師の急病等やむを得ない事情により、日程・テーマ・講師等が変更になる場合があります。

お知らせ
2022年後期HOWS講座は新型コロナウイルス感染拡大のため、本リーフレットでお知らせした講座の予定が変更になる場合があります。受講は定員25名の事前予約制として実施します。予定変更の際はお知らせします。